

川西地区学校の在り方検討協議会の意見書について

1 検討協議会の背景と目的

川西小学校・川西中学校は、清流地区の宅地造成などに伴い児童生徒数が増加しているが、1教室当たりの面積が狭いことや教室の絶対数が不足しているなど、校舎の狭隘化が進行している状況です。

また、校舎等の躯体が建築後40年以上経過しており「帯広市学校施設長寿命化計画」においても長寿命化改修の優先度が高い第Ⅰグループに属していることから、令和5年度に長寿命化改修や増築の可能性について状況調査を行いました。

このような施設狭隘化や老朽化といった実態・課題がある中、児童生徒にとってより良い教育環境や将来を展望した学校の在り方について検討するため、保護者や地域住民の代表、学校関係者など15名で構成された「川西地区学校の在り方検討協議会（以下「検討協議会」という。）」を令和6年12月から計3回開催し、検討協議会としてまとめた意見書を、去る3月31日に教育長に提出いただきました。



2 これまでの経過

年月	内容
令和5年5月～ 令和6年3月	● 川西小学校・川西中学校躯体設備等調査の実施
令和6年7月	● 川西小学校・川西中学校躯体設備等調査結果に関する地域説明会の開催 7月2日 川西農業者研修センター 21名参加 7月3日 清流福祉センター 11名参加 【寄せられた主な意見】 ・児童生徒のことを第一に考え整備を進めてほしい ・大空学園のような小中一貫の義務教育学校を建設してほしい 等々
令和6年10月	● 川西小学校・川西中学校の施設整備に関する地域要望書受理 7連合町内会連名（川西、豊西、富士、別府、基松、上帯広、清流の里地区） 【要望内容】 ・施設一体型小中一貫校など、子どもたちにとって最適な施設整備を進めること ・学校は地域コミュニティの核であることから、学校の在り方などについて、地域の意見を十分反映できる協議の場を設けること
令和6年12月	● 第1回川西地区学校の在り方検討協議会開催
令和7年1月	● 第2回川西地区学校の在り方検討協議会開催
令和7年2月	● 第3回川西地区学校の在り方検討協議会開催
令和7年3月	● 川西地区学校の在り方検討協議会意見書受理

3 「川西地区学校の在り方検討協議会意見書」の概要

（1）川西小学校・川西中学校の現状と課題について

川西小学校・川西中学校の児童・生徒推計や学校施設の現状と課題など

（2）川西地区における学校の在り方について

課題の解消に向けて、小中一貫教育の取り組みの検証、望ましい施設整備手法等について検討

①川西地区の教育環境

エリア・ファミリー構想に基づく、小中一貫教育の取り組みが進められており、今後も川西エリアの魅力を活かし、地域とともにある学校づくりを進めるべきである。

②義務教育学校の導入

川西エリアの更なる小中一貫教育の取り組みが進められることが見込まれることから、義務教育学校の設置が望ましい。

③施設整備手法

適した土地の確保ができるかなど課題があるものの、最新の教育ニーズに合わせた建物にすることが可能なことや、児童生徒への教育活動への影響などを踏まえ、移転新築による義務教育学校を整備することが望ましい。

④その他

施設整備に併せて周辺の道路整備や室内プールの新設、学童の併設や川西駐在所の移転等を望む意見や子供たちのからの意見も取り入れて進めてほしい。

以上を踏まえ、施設整備手法については、移転新築による整備が最も望ましいと考えるが、土地取得等の課題があることから移転新築が難しい場合は、既存中学校校舎の活用により、義務教育学校として整備することが望ましいとされています。

4 今後の対応

今後、教育委員会において今般の意見書を踏まえ、義務教育学校の導入など、川西地区の学校の在り方を整理するとともに、施設整備については、本市の学校施設全体で老朽化が進行していることから財政状況や公共施設マネジメントの考え方を考慮のうえ、優先順位を整理し、検討を進めていきます。